



国際ロータリー第 2530 地区 郡山アーバンロータリークラブ

国際ロータリー第2530地区ガバナー 平井 義郎
郡山アーバンロータリークラブ 会長 白岩 邦俊
幹事 松川 義行



インスピレーションに
なろう

第 10 回 例会 H.30.9.12 (水) ☀

- ▶ 開会点鐘 ロータリー歌斉唱「奉仕の理想」 四つのテスト唱和 増子ふみえさん
- ▶ ゲスト 岡田峰幸様

会長挨拶

白岩 邦俊 会長

今年度は地区セミナーがたくさんあり、新しい情報やこれまでとは変わった情報が非常に参考になります。

私が出席した中から、本日は 2 点だけご紹介したいと思います。ひとつは以前からの「エコキャップ」の活動で、地区としての活動は終了したそうです。「エコキャップ」は商標登録ですので、これからは「ペットボトルキャップ」の回収となります。

2 つ目はロータリーマークが変わったことです。歯車のマークに、必ずロータリーという文字が付いています。文字は「ロゴ」、歯車は「誇りのシンボル」という言い方がされています。この 2 つがあることが正式な表示です。ロゴの上か下に、地区名やクラブ名が入ることは構わないそうです。いずれにしても厳密な規則があることを認識してください。地区セミナーに積極的に参加して、新しい情報を皆さんに伝えていただきたいと思います。

出席報告

増子ふみえ 委員長



会員数 32名
出席率 46.88%
前回修正率 62.50%

スマイルBOX 報告

渡邊孝子 委員長

- ☺ 岩山 慎一 ▶ 今日のスピーチを楽しみに。
- ☺ 佐藤 功一 ▶ 岡田峰幸さんのお話を楽しみにして。
- ☺ 鈴木かおる ▶ 本日の例会楽しみです。よろしく願いたします。
- ☺ 増子ふみえ ▶ 岡田さん本日はよろしく願いたします。
- ☺ 大山三起雄 ☺ 味戸誠一郎 ☺ 渡邊万里子 ☺ 津野順子
- ☺ 渡邊孝子

プログラム/ゲスト卓話

新撰組と白虎隊

歴史研究家 岡田峰幸様

5 月にお邪魔した時は、あまり注目されることがない郡山の戊辰戦争の話をしていただきました。今年は節目の年ですので、今日も戊辰戦争に関わる話をさせていただきたいと思います。



舞台は郡山市湖南町です。新撰組という有名な剣術集団が約 3 か月間、湖南町に滞在しておりました。その間に新撰組と白虎隊が出会い、交流を深めたという話をさせていただきたいと思います。

江戸時代に天下を取っていた徳川家にとって代

わって、NHK大河ドラマの「西郷どん」をリーダーとした薩摩・長州が新たに天皇を中心とした明治政府を作りました。そのやり方があまりクリーンではなかったことから、徳川家を支持する人々が徹底抗戦し、最後まで頑張ったのが会津藩でした。徳川家が天下を取っている頃に京都の治安が悪くなり、テロ活動を取り締まるために会津藩が京都で治安維持活動をしておりました。会津藩だけでは手が足りないということで、江戸で剣術道場を開いていた浪人たちが京都に行き、治安維持のためのグループを作りました。会津藩の殿様の松平容保が、そのグループを「会津藩お預かり」として与えた名前が新撰組でした。

新撰組は約 5 年間、京都で会津藩と一緒に国家転覆を狙う不屈な者たちの取り締まりに当たっていました。ところがテロ活動をしていた方が政府を作ってしまう、会津藩は敵として追われる身となってしまいました。そのために新撰組は黙ってられず、会津にやってくることとなりました。新撰組の近藤勇局長は京都を追われ、関東各地を転々とした末に投降してしまいましたが、局長の下にいた副長の土方歳三を中心とした約 100 人が会津へやってきました。これが 150 年前の 4 月でした。新撰組は会津に向かって来る敵を防ごうと、現在の宇都宮付近で戦いました。そこで土方は左足を怪我してしまい、治療に専念するために会津で療養することになりました。

土方のいない間を齋藤一が率いることになりましたが、宇都宮で侵攻を防ぐことができず、陸奥の玄関口である白河が薩摩・長州に占領されてしまいました。当時は若松から白河に行くには、滝沢峠を通る現在の国道 294 号を使うことが一般的でした。白河を取られてしまった会津藩は、最前線の指令基地を湖南町福良に構えました。会津藩の下で戦うことになった新撰組も、



プログラム／ゲスト卓話

5 月からしばらくの間滞在することとなりました。ここから白河を奪い返す作戦のために、5 月から 7 月までに 7 回出陣しましたが、勝てませんでした。白河で戦い、負けると峠を越えて福良まで帰りました。直線距離で 30 キロほどあります。これを繰り返したわけです。

負け戦でしたから当然負傷者もたくさん出ます。そのための野戦病院が湖南町福良に置かれました。福良集落の西端にある千手院というお寺が野戦病院になりました。戦いを重ねて千手院の負傷者は増えていき、沈痛なムードが広がってきたと思います。その雰囲気を感じた鶴ヶ城にいた会津藩首脳部は、前線で戦う兵士たちを慰問することにしました。そこで松平喜徳（のぶのり）を慰問に送ることになります。松平容保の養子で、隠居した容保に代わって当時 14 歳の喜徳が会津藩の殿様となっていました。まだ殿様となって日も浅く、家来への顔見世の良いチャンスとして、6 月末に福良の千手院に慰問に出掛けることになりました。

喜徳に付いて行くことになったのが白虎隊の 16～17 歳の子供たちでした。彼らにとっては初陣です。白虎隊という飯盛山で亡くなった 19 人だけかと思いますが、白虎隊は 100 人以上おりました。当時の会津藩は年齢ごとに 4 つの部隊に分けられていました。16～17 歳の少年たちが白虎隊、18～35 歳は朱雀（すざく）隊、35～49 歳は青龍（せいりゅう）隊、50 歳を過ぎるとご隠居さんの玄武（げんぶ）隊となります。本来であれば戦場に出る機会はないはずの白虎隊が、若殿様のボディガードとして出陣することになったわけです。

白虎隊の中でも身分によって士中（しちゅう）、寄合（よりあい）、足軽（あしがる）の 3 つに分かれておりました。士中は家柄の良いエリート、寄合は中流階級、足軽は身分の低い家柄でした。身分制度のうるさい会津藩でしたから、エリートの子が貧乏人の子と一緒に戦うことを嫌がったらしく、最初に戦場に行かされたのは寄合、足軽の子供たちは新潟方面に行かされました。士中の子供たちはエリートの幹部候補生で約 100 人おり、1 番隊と 2 番隊に分かれておりました。飯盛山で亡くなったのは士中の 2 番隊の子供たちでした。

若殿様が白虎隊の士中 1・2 番隊とともに、6 月末に福良に慰問にやってきました。福良のメインストリートにはかつて本陣という大きな建物があり、そこで合宿生活を送りました。ある日、本陣の前を一礼もせず馬で通り過ぎる者がおりました。それを止めようとしたところ、馬を降りて挨拶をしたのが、怪我が治って戦線復帰した土方歳三でした。噂を聞いていた白虎隊は戦々恐々としませんが、土方から褒められて非常に喜んだという話が残っています。7 月 13 日だったとされています。土方は本陣の隣の家に泊まりました。戦いの話を聞きに土方を訪ねた白虎隊の少年たちに、やさしく語って聞かせたそうで、生き残った白虎隊が「談笑した」と感想を書き残しています。強い土方をあこがれの目で見ている白虎隊の子供たちは、目を輝かせて聞いていたということです。

白虎隊の子供たちは行きは南側を回って福良に行きましたが、帰りは東側を回って猪苗代を通り、強清水に出て滝沢峠を越えて帰って行きました。その途中には会津の人たちの聖地である土津神社があります。

祀られているのは会津藩初代殿様の保科正之です。戦勝必勝祈願をして、軍事演習のように行進しながら会津に帰りました。その 1 か月後、母成峠から敵が攻めてきました。白虎隊の子供たちは滝沢峠の入り口にある戸の口原に出陣しました。負けて散り散りになった 20 人が飯盛山に行き、町が燃えているのをお城が燃えていると誤解して、自分たちで命を絶ってしまうこととなりました。新撰組の斉藤一は最後まで会津に残って戦い、土方は函館まで行って終戦まで戦い続けました。

白虎隊の生き残った子供たちは、福良にいた「あの時が一番楽しかった」と回想録に書いています。本当に短い人生でしたが、日新館で学んだクラスメートみんなと出陣して初めて外泊し、おしゃべりに興じて夜を過ごした青春と呼べる 1 ページが繰り広げられたのが、現在の郡山市湖南町だったわけです。秋の行楽シーズンを迎えてお出かけの機会があるかと思いますが、福良を通りかかったら、すでに土方が泊まった建物はありませんが、白虎隊の子供たちが土方歳三と出会い、短い青春のまぶしいひと時が繰り広げられたことなどを思い起こしていただければと思います。幕末から戊辰戦争にかけて、今でも世代を超えて人気のある新撰組と白虎隊という 2 つの集団が顔を合わせたのは、ここだけです。本来は観光 PR として使えるくらい大きな歴史の事実です。表に出てこない状況ではありますが、郡山に住んでいる我々は、そのことを知っておきたいと思います。

ちなみに新撰組が習っていた剣法は天然理心流（てんねんりしんりゅう）です。今も東京の西で続いている流派で、かつては秘技があったとされています。幕末に活躍した近藤勇の先代代の師匠が秘技を編み出したそうですが、早く亡くなったために途絶えたそうです。この技を使うと刀で鉄砲に勝てたそうで、もし伝わっていたら戊辰戦争は負けなかったと言われるすごい気合術です。

天然理心流のその秘技を使うと、どのようにして鉄砲に勝つことができるのか、余興として考えてみてください。A：はじく、B：それる、C：姿が消える、どれでしょうか。当時の記録には、気合術で姿が消えて相手から見えなくなると書いてありました。話はそれましたが、新撰組と白虎隊という大きなグループが出会ったのが郡山市であったことを紹介させていただきました。



ロータリー財団寄付者

■ 佐藤功一 ■ 味戸誠一郎 ■ 鈴木尚子

米山記念奨学会寄付者

■ 津野順子 ■ 白岩邦俊 ■ 大山三起雄 ■ 鈴木尚子
■ 佐藤功一 ■ 増子ふみえ ■ 味戸誠一郎

閉会点鐘